



Oracle® Hyperion Profitability and Cost Management

リリース 11.1.2.3

New Features

ORACLE®
ENTERPRISE PERFORMANCE
MANAGEMENT SYSTEM

このドキュメントでは、Oracle Hyperion Profitability and Cost Management リリース 11.1.2.3 の新機能と拡張機能について説明します。これらの機能の詳細は、Oracle Hyperion Profitability and Cost Management Administrator's Guide および Oracle Hyperion Profitability and Cost Management User's Guide を参照してください。

注： Oracle Hyperion EPM Architect の新機能は、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect Readme を参照してください。

目次

リリース 11.1.2.3 の新機能	2
リリース 11.1.2.2.350 の新機能	3
Apple モバイル・デバイスに対して認証されたドキュメント	4
以前のリリースで導入された機能	5

リリース 11.1.2.3 の新機能

サブトピック

- [詳細 Profitability の計算ルール](#)
- [詳細 Profitability での OLAP 分析の有効化](#)
- [詳細 Profitability での宛先ステージ賃借一致](#)

詳細 Profitability の計算ルール

計算ルールは、現在の計算フレームワークを拡張したものです。計算ルールは、計算アーティファクト、カプセル化するソース、宛先およびドライバのスーパー・セットです。計算ルールを使用すると、ソース、宛先およびドライバを使用して幅広い配賦を作成し、個々の割当てを予約してこれらの計算ルールの例外を作成することによって、定義する割当ての量を削減できます。

計算ルールの導入により、詳細 Profitability アプリケーションでのモデリングにはトップダウン・アプローチが使用されます。ユーザーが計算ルールを使用してすべての配賦を実行すると、計算ルールによって計算フローが制御されます。

詳細 Profitability での OLAP 分析の有効化

3 つの新しい Oracle Essbase データベース(ソース・ステージ、コントリビューションおよび宛先ステージ)を配置し、対応するリレーショナル・テーブルからデータを転送できるようになりました。レポート・データベースからの結果は、レポート・ツールおよび分析ツール(Oracle Hyperion Financial Reporting、Oracle Hyperion Web Analysis、Oracle Hyperion Smart View for Office、Oracle Business Intelligence Enterprise Edition など)で表示できます。

詳細 Profitability での宛先ステージ賃借一致

詳細 Profitability でステージ賃借一致を行うと、宛先ステージ・データに対する計算の影響の詳細が示され、計算ルールの対象となるメジャー列の要約データが表示されます。この機能は、「ステージの賃借一致」画面の下半分で選択できるようになりました。

リリース 11.1.2.2.350 の新機能

サブトピック

- [Smart View クエリーの統合](#)
- [Profitability and Cost Management アプリケーション・マネージャ\(Profitability アプリケーション\)](#)
- [アウトライン・ビルダー\(キューブ・ジェネレータ\)](#)

Smart View クエリーの統合

Smart View 統合は、データ管理に関するヘルプを提供し、配賦データの診断を実行し、配賦データと系統データの両方の分析を可能にするために、標準 Profitability モデルでのみ使用可能です。さらに、Smart View 統合では、ステージ賃借一致から起動できる、コンテキスト依存の調査ツールが用意されています。

Smart View クエリーではユーザーは Profitability and Cost Management データのビューへすばやくアクセスできます。クエリーは計算用データベースまたはレポート用データベースのいずれに対しても定義でき、Smart View を起動した後は、グリッドを分析用に使用できます。データの入力も計算用データベースに対して実行できます。

「クエリーの管理」画面を使用すると、クエリーのタイプを選択した後、グリッドと Smart View POV を使用してクエリーを見直すことができます。クエリーは保存して再利用、または他の Profitability and Cost Management のユーザーによりクローニングできます。クエリーは、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System Lifecycle Management を使用してエクスポートおよび再インポートすることもできます。

デフォルトのクエリーは選択したクエリー・タイプに応じて異なるビューを提供します。各クエリーでは選択したタイプに対し選択を追加できます。たとえば、ドライバ・メジャーのクエリー・タイプでは、ドライバの場所(「ソース」、「割当て」、「宛先」または「グローバル」)と、次元レイアウトおよびメンバーの選択画面に表示される次元のデフォルトを完了するためのステージの組合せを指定することがユーザーに求められます。

クエリーの結果は、「ステージの賃借一致」レポートから、関連するグリッドで Smart View を起動するために選択できるデフォルトのハイパーリンクを使用して表示します。入力または配賦データについて詳細にドリル・ダウンすることもできます。たとえば、配賦の実行後に未配賦コストへドリルダウンしたり、または同じ実行で使用された入力データを確認することができます。

任意の次元または次元メンバーの名前が変更または削除された場合、それらの次元を参照している Oracle Hyperion Smart View for Office クエリーは無効になります。「モデル検証」画面の「クエリー」タブで、すべての問合せが検証され、無効なクエリーに対するエラー・メッセージが表示されます。

Oracle Hyperion Smart View for Office クエリーの作成、メンテナンスおよび表示の手順は、Oracle Hyperion Profitability and Cost Management User's Guide のリリース 11.1.2.3 を参照してください。

Profitability and Cost Management アプリケーション・マネージャ(Profitability アプリケーション)

Performance Management Architect をインストールできないインスタンスでは、Profitability and Cost Management アプリケーション・マネージャを Oracle Hyperion EPM Architect のかわりに使用して、Profitability and Cost Management アプリケーションおよび次元を管理できます。

アプリケーション・マネージャの場合、Essbase を次元管理システム、または Profitability and Cost Management アプリケーションの次元のソースとして使用します。ユーザーは次元および次元メンバーをマスター Essbase アプリケーションに作成し、それを Profitability and Cost Management アプリケーションにインポートします。同じマスター・アプリケーションを使用して複数の Profitability and Cost Management アプリケーションを作成できます。Profitability アプリケーションを作成する際に、アプリケーション・タイプ(「標準」または「詳細」のいずれか)を選択します。

Essbase または Performance Management Architect のどちらを使用して Profitability and Cost Management アプリケーションを作成しても、アプリケーションの動作に違いはありませんが、元の次元管理システムを使用してソースを変更できるだけです。

Essbase マスター・アプリケーションの作成とメンテナンスの手順、およびこれを使用して Profitability アプリケーションを作成する手順は、Oracle Hyperion Profitability and Cost Management User's Guide のリリース 11.1.2.3 を参照してください。

アウトライン・ビルダー(キューブ・ジェネレータ)

新しいアウトライン・ビルダーを使用すると、非常に大きいモデルを Oracle Hyperion Profitability and Cost Management から Essbase に配置できます。また、アウトライン・ビルダーを使用すると、Oracle Essbase アウトライン配置時間と、配置時の TCP ポート消費の使用率を削減できます。ASO データベースと BSO データベースの両方がサポートされます。

アウトライン・ビルダーでは自動的に配置操作がサポートされるため、ユーザーのアクションは必要ありません。

Apple モバイル・デバイスに対して認証されたドキュメント

リリース 11.1.2.3 のドキュメント・ファイルは、以前から使用可能であった .mobi ファイルおよび .epub ファイルの 2 つのモバイル・フォーマットで使用可能になりました。すべての Apple モバイル・デバイス(iPad、iPhone および iPod Touch)に対して、Oracle Enterprise Performance Management System ePub ドキュメント・ファイルがサポートされています。ePub ファイルは多くのモバイル・デバイスでサ

ポートされていますが、Apple モバイル・デバイスでのみ認証されています。将来的には追加のデバイスも認証される予定です。

以前のリリースで導入された機能

リリース 11.1.2.0、11.1.2.1 または 11.1.2.2 を使用していた場合、累積機能概要ツールを使用して、これらのリリース間で追加された新機能のリストを確認してください。このツールを使用すると、現在の製品、現在のリリース・バージョン、ターゲット実装のリリース・バージョンを特定できます。シングルクリックによって、現行リリースとターゲット・リリースの間に開発された製品機能の高レベルな説明のカスタマイズ済セットが迅速に生成されます。このツールはこちらにあります:

<https://support.oracle.com/oip/faces/secure/km/DocumentDisplay.jspx?id=1092114.1>

著作権情報

Profitability and Cost Management New Features, 11.1.2.3

Copyright © 2013, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

著者: EPM 情報開発チーム

Oracle および Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS:

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を生じさせる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用了ことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。